

岡山聾学校幼稚部

「他者と主体的に関わる姿」(環境<人、物など>と関わる力/見聞きして分かる力/伝える力)を育てる保育づくりのポイント

**1. 教師の指導・支援(人的な環境構成)**

○関わり方

1	幼児の思い(興味・関心、遊び方など)を尊重して、一緒に遊ぶことができるか?
2	幼児が環境(人、物等)に注目するための促しができているか?
3	幼児が環境(人、物等)と関わりたいと思った瞬間を見逃さず、働き掛けたり(幼児の気持ちの確認、幼児役になって遊びに誘う、友達との関わり方を一緒に考えたり、手本を示したりするなど)、見守ったりすることができるか?
4	幼児が環境(人、物等)との関わり合いの中で、できたことや努力したことなどを即時に振り返ったり、時間をおいて振り返ったりして、称揚したり、価値付けしたりすることができるか?

○教示方法

1	言葉による説明は端的に簡潔に行うことができるか?
2	幼児が教師に注目するための指導の工夫ができているか? (情報量を調整する、教材・教具の一部を隠すなど)
3	活動の流れ、内容、ルール、選択肢などの理解や振り返りなどができるように、イラスト・写真・動画・実物・文字・実演などの幼児の実態に合わせた分かりやすい手掛かりを提供できているか?

○言葉の指導

1	保育の中で、獲得をねらう言葉を事前に想定して、精選することができるか?
2	教師がねらっている保育に必要な言葉(使用する教具や活動などの名称、オノマトペ、発表内容など)を音声や発音サイン、文字、手話などで確認することができるか?
3	幼児の心の動き(興味、意図、必要性など)を捉え、新しい表現を教えたり、言葉で表現させたりすることができるか?(音声や発音サイン、手話など)
4	初めは、教師と一緒に表現したり、必要に応じて教師が近くで言葉を添えたりして、少しずつ、自分で表現できるように段階を踏んで指導することができるか?
5	幼児の実態に合わせた言葉を使用する場面と少し難しい言葉をあえて使用する場面を使い分けることができるか?

○ティーム・ティーチング

1	保育の中で、ねらいたい内容や指導場面を保育者間で共通理解することができるか?
2	保育者間で日々の幼児のあらわれを共有して、保育の改善を行うことができるか?
3	指示や内容理解を助けるように必要に応じて追加で説明をしたり、主保育者への注目を促したりすることができるか?

**2. 物的な環境構成**

○幼児の活動場所

1	教師の説明や友達の発言を見聞きしやすい座席位置(馬蹄形)や活動場所になっているか?
2	幼児同士がお互いの活動に興味をもつことができる距離になっているか?

○教材の配置や量

1	幼児が利用しやすいように整理整頓された教材等の配置や幼児が注意を向けやすい配置になっているか?
2	教材・教具の数は、人数やねらいに合わせて適切な量にすることができるか? (友達同士や教師との関わり合いを作りたいときには、あえて少なくするなど)
3	幼児が飽きずに取り組むことができるように、教材をアップデートしたり、小出しにしたりすることができるか?

○教材の工夫

1	幼児の遊び心をくすぐる教材・教具になっているか? (本物や本物感のある物・感覚に働き掛ける物<面白い感触・良い香り・スピード感・浮遊感・鮮やかさ>など)
2	個々の幼児の実態や興味・関心に合わせた教材・教具を準備することができるか?

### 3. 保育づくり

#### ○指導計画の作成

1	幼児の実態に応じた題材、遊びを選ぶことができるか？
2	幼児にとって必要性・必然性がある内容の計画になっているか？
3	幼児が遊び込むことができる十分な時間を確保した計画になっているか？
4	幼児が活動を理解して楽しみ、自ら遊びの輪に加わることができるように、教材や遊びの提示は、経験のあるものや興味をもちやすいものから順に行っているか？また、遊びの内容やルール、きまりは、簡単なものから少しずつ難しくする指導計画になっているか？
5	まずは、信頼できる教師と一緒に遊び、次第に関わり合いを他者に広げていく指導計画になっているか？
6	指導計画の中で、発達段階に応じてごっこ遊びを積極的に取り入れることができるか？

#### ○本時の設計

1	保育の導入では、視覚的支援(手本、写真)や実体験をとおして、遊びへのイメージを広げることができるか？
2	幼児の実態差に応じた教材の準備ができているか？(選択できる、使いやすい教具など)
3	幼児が遊びを安全に楽しんだり、幼児同士が関わり合ったりするための適切なルールの設定ができているか？
4	幼児の実態に応じた適切な活動量、適切なタイミングでの休憩、順番待ちの時間の際の手立てなど設定することができるか？
5	保育のねらいや内容に応じて、一人で遊び込む場面や教師の促しを受けて友達の遊びに注目する場面、幼児同士で関わり合い一緒に遊ぶ場面を意図的に設定することができるか？
6	幼児同士の関わりを生む意図的な場面設定をすることができるか？(手をつなぐ、ハイタッチする、貸し借り、共同作業、困る場面、がんばりを認め合う場面、気付きを共有する場面など)
7	保育の最後では、振り返りを行い、発表する時間を設けることができるか？

#### ○保育の評価

1	幼児の良さや可能性に着目した評価を行うことができるか？
2	精選して残した記録(教員間で視点を共有した記録、ねらいに基づく記録、写真や動画の活用等)を基に、幼児の思いや障害に基づく様々な困難さを読み取り、指導計画や環境設定を改善することができるか？
3	学年の枠を越えた教員で、幼児の個別の指導計画に基づくねらい、日常の遊びや生活の様子を共有し、発達段階や障害の状態等も踏まえて、多面的に評価することができるか？